

第 34 号 「演劇で振り返る 3 年間の PCUR-LINK 事業」

(2007 年 7 月 5 日発行)

1. 監督・制作・脚本・主演すべてオバチャンたちが！演劇で振り返る 3 年間の PCUR-LINK 事業

演劇の前に・・・。

6 月 27 日、生産・物流センターの開所式が開かれました。

農村部のオバチャンたち、VVK のオバチャンたち (※1)、そして JICA 中部国際センター、JICA インド事務所、ジャヤチャンドラン (※2)、地元の NGO や森林局のスタッフなどが参加し、大盛況で開催されたセンター開所式。

農村部のオバチャンたちと VVK のオバチャンで名付けたセンターの名前は、「チャイタニア」と発表。(名前付けのドタバタは、PCUR-LINK 便り 33 号参照)。チャイタニアは、「自覚」という意味。

完成したセンターを目の前に、目がウルウルする VVK のオバチャンたち一同。

開所式のスピーチで、VVK 代表オバチャンは「このセンターはこれから、アタシたちが、農村部のオバチャンたちと一緒にあって、クラフト素材事業や SHG 育成にどんどん活用してゆくのよ！これからだって、今まで以上にがんばるわよー！」と力強い発言をし、喝采を浴びていた。

センター開所式数日前、この地区全域で大雨、暴風、洪水。

果たして開所式ができるかどうかは前日の夜遅くまで不安だったが、開所式が終わるまでは全く雨が降らず、無事に開所式を終了することが出来た。

その後、ビシャカパトナムに戻ったオバチャンたちは、演劇で振り返る 3 年間の PCUR-LINK 事業終了時評価のための最終リハサールに大忙し。

<演劇で振り返る 3 年間の PCUR-LINK 事業>

JICA 中部国際センター、JICA インド事務所、そして評価ファシリテーション専門家の長畑氏 (※3) と半年以上前から準備を進めてきた終了時評価。

オバチャンたち自身が演劇で 3 年間の活動を振り返り、彼女たちが自身が活動を振り返ること、そして彼女たちの演劇を観ることで、ソムニードはオバチャンたちの変化を把握し、また自分たちの事業への介入を分析する、というのが今回の評価のメインテーマ。

6月26日から7月4日かけて行われた終了時評価は、JICA 中部国際センター、JICA インド事務所からもスタッフが参加し、同事業関係者が一同に集まった非常に中身の濃い終了時評価となった。

で、どれだけ中身が濃いか、というと。。。。

なんか今月号、最終回だから緊張してるのか、どうもいつものワハハ調子で書けないプロマネ（※4）。

オバチャンたちは、6月初めから毎日のように VVK 事務所にやってくるのは、演劇の練習の日々。監督、制作、脚本、出演、メイク、小道具、舞台などなどすべてオバチャンの手づくりの演劇。

6月最初のミーティングで。。。。

◎オバチャン 1：「演劇をアタシたちでやるって言ったってさー、ソムニードのスタッフで、脚本なんかは書いてくれるんでしょ？」

●ラマラジュ（※5）：「ソムニードのスタッフは、6月29日に JICA のスタッフ、ジャヤチャンドランさん、長畑さんと一緒に初演を見せてもらうまで、何もしませんよ。」

○オバチャン 2：「エーッ！だって3年間の活動を振り返るんでしょ？アタシたち最近のミーティングや研修の記録は自分たちでつけているけど、3年前の記録なんてないから、それはソムニードで見せてくれる？」

▲オバチャン 3：「そうそう、あといっぱい写真も撮っていたよね。写真も見せてくれるかしら？そうだ、JICA インド事務所からビデオカメラだって借りてるって言ってたわよね？！アタシらを撮った映像があるなら、それも見せてくれる？」

●ラマラジュ：「もちろんです。では明日、そうした映像なり、写真なり、報告書なりをすべて持ってくるので、みんなで見てください。」

△オバチャン 4：「7月3日には、VVK メンバー全員に演劇を観てもらおうんでしょ？会場はどこにするの？」

●ラマラジュ：「それも、自分たちで決めて、自分たちで VVK メンバー全員に知らせてください。あ、会場費はソムニードで出しますから。」

◎オバチャン 1：「JICA の人たちに見せる初演の6月29日まで、1ヶ月もないじゃない！ホントにホントにアタシたちだけで脚本から、監督から、出演から、全部やるのー？？そんな出来ないわーっ」

■プロマネ：「出来ると言ったら、出来るのです。全部、自分たちでやってください。」

○オバチャン一同：「エーッ、ホントにアタシらだけでやるの？？？」

そして毎日のように VVK 事務所にオバチャンたちは練習にやってきました。

6月29日、JICA 中部国際センターの脇田さん、JICA インド事務所の佐々木さん、そしてジャヤチャンドランさん、長畑さん、ソムニードのスタッフが見守る中での初演。

初演が終わったあと、ドキドキしてみんなのコメント待ったオバチャンたち。きっとまた黄門様（※6）やジャヤチャンドランに叱られちゃうー！と思っていたのに……。

☆ジャヤチャンドラン：「うーん、すごい演劇だった。3年間あなたたちは、最初に個別の SHG を強化し、次に連合体である VVK を運営し、そして今は VVK による銀行やクラフト素材ビジネスを動かしている。3年前に自分たちでやると言ったことを実現しているのはスゴイことだ。本当にみんなよくがんばった。」

★黄門様：「皆、よくやった。おまえさんたちだけで作った演劇じゃ。監督、脚本、出演すべておまえさんたちには出来るとワシは信じておったぞ。その期待通りに演劇が出来た。ワシの役は、ワシよりテルグ語が上手だったし、ハンサムだったしな、ハハハ。ただ、7月3日の舞台上で発表するときは、もう少し工夫がいるがの。例えば、ワシはおまえさんたちに一方的に講義をしたことはないじゃろう？いつもおまえさんたちに質問をしておったよな？ワシが質問する、おまえさんたちが考えて答える、という対話方式は演劇でも表現するとよいな。」

●長畑さん：「うーんさすが VVK だ！ここまで詳しく3年間を振り返ったのはスゴイ！しかも転機になった出来事はすべて網羅して、3年間で達成できたこと、できなかったことが明確になっていました。ただ、あまり成功話ばかりでは、演劇は面白くないですからね。ほら恋愛映画なんて、みんなヒーローとヒロインが好き合っているのに、障害が多くて、なかなか一緒になれない。だから映画は、面白いでしょう？だから、VVK の演劇も、成功したとか、達成したとか、いうことばかりでなくて、もっと自分たちが直面した多くの障害や問題を描くと、ずっと観客のみんなには面白くなりますよ。」

そんな評価チームからのコメント受けた、オバチャン。

○オバチャン1：「アタシらもね、今日始めて最初から最後まで、こうして評価チームのみんなの前で演じてみて、ここまで自分たちで出来るとは思ってなかったのー。だから自分で自分にびっくりしちゃったわー。」

▲オバチャン2：「6月の最初にラマラジュやプロマネが、VVK だけで演劇をつくるように、と言ったとき、そんなこと出来るわけないと思ったの。途中で、きっと助けてくれるんじゃないかな、と期待してたけど、結局、今日までアタシたちだけで演劇を作ったのよね。アタシたちってスゴいわね。」

◎オバチャン3：「アタシ、昨日の晩、眠れなかったのよ。きっと、今日ジャヤチャンドランさんや黄門様に、演劇がうまく出来なくて、叱られちゃうって思ってたね。でもヨカッ

タわー、JICA のスタッフもソムニードのスタッフもみんな褒めてくれて、嬉しいわー。あー今日の夜はぐっすり眠れそうだわー。あ、でもまだ7月3日があったわね。」

翌日の6月30日。

評価チームから再び細かなフィードバックを受け、オバチャンたちは、7月3日のVVKメンバー全員の前で披露するための演劇の猛練習をまたまた始めたのだった。

まったく土曜日でも日曜日もなく、夕方まで遅くまで練習、7月3日の招待状づくり、と大忙しのオバチャンたち。

7月3日の演劇の招待状を、7月1日と2日に配るんだから大したもの。

しかも！ほとんど前日に知らされたにもかかわらず、3日当日には、259名の観客が！500人収容の劇場が半分以上も埋まってしまう人数だったからスゴイ！

それでは、7月3日にVVKメンバー259名の観客を前に披露した演劇の紹介をご紹介します。

まずは、配役。

水戸黄門様役、プロマネ役、ラマラジュ役をはじめ、ソムニードのスタッフの役は4人。

その他、ジャヤチャンドラン役、マヒラアクション（※7）スタッフ役が各1名、団体登録事務所の役人が2名。

オバチャンが演じるオバチャン役として、VVKのスタッフ役、VVKの代表役、VVKの指導員役、SHGメンバーの役。

そしてVVKオバチャンたちが作った台本。

なんと時間にして2時間！！

「2時間の演劇って、なんちゅー長さじゃ」と思ったが、インドの歌と踊り映画3時間平均に比べれば、2時間は短いほう。オバチャンたち、さすがに踊りと歌は入れなかったから、演劇は2時間で収まったのだった。

それでは、オバチャンたちが作って演じた9つの場面をダイジェストで。

<場面1>PCUR-LINK 事業が始まる前

マヒラアクションのスタッフが、SHGメンバーの家を一軒、一軒まわり、「ミーティングですよー、貯蓄を集めてくださいよー、記録をつけてあげますよー、銀行にも行ってあげますよー」とすべてのSHGの仕事をやっていた当時のシーン。

<場面2>PCUR-LINK 事業開始当時

水戸黄門様に「グループで貯蓄をする強みとは？」とか「PCUR-LINK 事業は白紙で、中身を描いていくのはおまえさんたちだ」と言われた研修の様子が、水戸黄門様役のオバチャンによって再現された。

<場面 3>SHG の内部資金運用と金銭出納帳の研修

最初は「どうしてスタッフが帳簿つけてくれないのよ。ローンくれないなら、スタッフなんか SHG に来なくていいわよ。」という SHG メンバーのシーン。その後、貯蓄の力だけで、外部の銀行などのローンに頼らず、グループの資金を運用できる、そして帳簿もスタッフに頼らず、自分たちでつけることが出来るという研修を黄門様から受けるシーン。

<場面 4>研修やチェンナイのアクシャヤ銀行視察後、変化する SHG

ビシャカパトナムでの研修のあと、チェンナイのアクシャヤ銀行（※8）に視察に行き、自分たちと同じようなスラムの女性たちが、自力で SHG を運営しているのを目撃。俄然やる気になって SHG の帳簿づけや、定期的なミーティングやローンの返済、グループリーダーに仕事を押しつけるのではなく、グループ全員で SHG の仕事を分担する、という SHG の変化が現れた場面。

<場面 5>VVK 結成

自分で決めた SHG のルールを守ったグループだけが PCUR-LINK 事業のパートナーとして、生産・物流センターの企画・運営に携われる、という SHG 選抜を勝ち残った 7 つの SHG で作った連合体。

その連合体の名前を VVK（ビシャカ・ワニタ・クランティ）とし、事務所の衛生管理、事務所の運営、連合体の会則づくり、すべて手作りで、ソムニードの指導を受けながら、悪戦苦闘するシーン。

<場面 6>VVK が新しく加盟 SHG を勧誘する

当初 7 つの SHG で発足した VVK であるが、その後、会の運営についていけない SHG が脱会し、4 つの SHG のみになってしまった VVK。しかしこの 4 つの SHG で、新たに VVK に加盟する SHG の勧誘をスタートし、いくつもの SHG に足を運ぶ VVK メンバーの場面。また新たに VVK に加盟したメンバー SHG の指導も行った。

<場面 7>ビジネストレーニング

内部資金運用で得た利益を投資し、サリー小売業を始めたが、ドーンと失敗してしまったオバチャンたちが、黄門様に頼んで、どうしてサリー小売業が失敗したのかトレーニングしてもらおう。その研修で習った、在庫管理の方法、帳簿づけ、コスト計算などを、おさらいしたシーン。

<場面 8>VVK 団体登録

「VVK でビジネスを始めたい！銀行業を始めたい！」と決めたオバチャンたちだが、ア

ンドラプラデッシュ州の法律では、そのために団体登録をしなければならない。
団体登録を実現するため、登録事務所に6ヶ月も通い、ようやく登録書を手に入れた場面。
登録事務所の小憎らしい役人の様子がリアルで、何度も足を運ぶオバチャンたちの根性と、
団体登録をあきらめなかった、という気合いの入ったシーン。

<場面9>VVK 銀行スタート

団体登録終了後、VVK 銀行がスタート。

VVK 銀行からお金を借りる手続きを細かく再現したシーン。

このシーンを見るだけで、VVK 銀行からお金を借りる方法が誰にでもわかるようになっていた。

この場面1から9まで、すべてオバチャンたちが自分で、脚本を書いて、自分で演じてるんだから、スゴイ。この演劇を含めた PCUR-LINK 事業終了時評価報告は、映像でも発表される予定である。

実は、この7月3日の演劇、プロマネとアシスタント・プロマネ（※9）そして、元マヒラ・アクションのスタッフで、今はソムニードのスタッフ2名も参加した。

プロマネは、<場面3>の SHG メンバーの役。「スタッフが SHG の帳簿をつけてくれなくて、アタシら SHG メンバーで帳簿つけて、なんかいいことあるわけ？」というセリフ。

舞台の袖で待機していて、出番になると「ほら、行くわよ」とオバチャンに押し出され、舞台の上では「ほら、アンタのセリフよ」とつつかれ、オバチャンに指示されっぱなし。

しかも舞台では、緊張のあまり、セリフ（テルグ語）を間違えて、アワワワとしてしまった。たった一言のセリフだったのに、この慌てよう。

情けない大根役者プロマネに比べて、黄門様役やジャヤチャンドラン役、VVK スタッフ役、登録事務所役人の役のオバチャンたちのセリフの多いこと、そしてその堂々とした演技には、脱帽。

演劇終了後には、監督役の VVK 代表オバチャンが、マイクを会場に向けて、観客に感想を聞いた。

■VVK 代表オバチャン：「今日はみんな、PCUR-LINK 事業の3年間を振り返る演劇に来てくれて、どうもありがとう。これまで VVK でみんなでがんばってきたことを多くの人に知ってもらいたいと思って、演劇にしました。感想のある方はお願いします。」

□観客オバチャン1：「アタシ、VVK に入ったのが3ヶ月前なんだけど、何度も VVK のスタッフがアタシの SHG に来て、VVK のこと話してくれたのね。でもミーティングで話を聞いているだけでは、VVK のことよくわからなかったけど、今日演劇を観て、はじめて VVK の活動がわかったわ。」

◎観客オバチャン 2:「アタシなんて 2 年近く VVK のメンバーをしているけど、年に 2 回の会員総会に参加するだけだったの。だから今日の演劇観て、すごい苦勞して団体登録したこととか、VVK 銀行でローンを借りる方法とかよくわかってヨカッタわ。」

■観客オバチャン 3:「アタシは 2004 年から PCUR-LINK 事業の研修をいっぱい受けてきたけど、演劇チームには入ってなかったの。こうして 3 年間を振り返ると、すごいたくさん研修を受けたんだなあ、と実感したわ。」

▲観客オバチャン 4:「VVK 銀行でローンを借りる方法、今日の演劇を観るまでよくわかってなかったわ。そんな簡単なことだったら、明日にでもローンの申請書を出すわ！」

■VVK 代表オバチャン:「そうですか、ではローンの申請書を VVK 事務所に取りに来てきてください。他にも VVK 銀行から借りることを希望している人はいませんか？今なら、まだたくさんの方が借りられますよー。」※

※この 1 ヶ月、あまりに演劇に集中していて、銀行の宣伝をしていなかったのので、ローンを借りに来てくれるお客さんが少なくなってしまった VVK 銀行。この機会に営業をするしっかり者の VVK 代表オバチャン。

この 7 月 3 日を最後に、オバチャンたちの PCUR-LINK 事業の 3 年間を振り返る演劇は終了した。彼女たちにとって、JICA の草の根技術協力事業は終わってしまったのだが、VVK の活動には終わりが無い。

演劇が終わり、観客が帰る頃には、マイクを使った VVK 代表オバチャンが「明日は執行委員会よー、欠席しちゃダメよー。あさっては指導員研修よー。銀行のローン委員会はちゃんと月曜日に来なさいよー。」などと業務連絡を飛ばしていた。

JICA の支援は終わっても、オバチャンの VVK は終わらない。

ソムニードはこれからも、オバチャンたちのビジネスが軌道になり、自己資金だけで VVK が運営できるようになるまで、しばらくは VVK の運営を資金面、技術面から支援をしてゆくことになる。

やっぱりプロジェクトが終わった気はあまりしない。

ひょっとしたらこの PCUR-LINK 便りも、今回は最終回じゃないんじゃないか、という気もしてきた・・・。

2. 「そしてソムニードは何をしたのか？」3 年間のファシリテーションを振り返る

オバチャンたちが 3 年間で達成した成果は、演劇で存分に表現された。

では、一緒に 3 年間活動してきたソムニードは一体何をしたのか？

7 月 2 日、評価ファシリテーション専門家の長畑さんにより、スタッフが 3 年間を振り返

るワークショップがひらかれた。

これも PCUR-LINK 事業の終了時評価のひとつ。

★長畑さん：「では、ソムニードの皆さんにエクササイズです。まず 6 月 29 日の VVK の演劇を観て、VVK のメンバー自身にとって重要なイベントだと思われることを書き出してみてください。」

◎ソムニード・スタッフ 1：「VVK メンバーにとって重要なことですね？」

★長畑さん：「はいその通りです。」

VVK が演劇で取り上げたイベントがリストアップされた。

★長畑さん：「これはたくさんありますねえ。さて、このうち年ごとに、3つのイベントを選んでみてください。」

□ソムニード・スタッフ 2：「2004 年の SHG の変化と、2006 年の VVK 団体登録、そして 2006 年から 2007 年にかけて行われた指導員養成研修でしょうか？」

●ソムニード・スタッフ 3：「演劇を観ていて気づいたけど、2004 年のシーンにはソムニードのスタッフの出演があるけど、2006 年以降は、ほとんどソムニードのスタッフが出演に出てこずに、VVK メンバーだけだったね。」

☆ソムニード・スタッフ 4：「ソムニードのスタッフがミーティングで意見をいうシーンも手を挙げて発言するとか、ミーティングの後ろの方に座るとか、よく観察してたよね。」

●元マヒラアクション・スタッフ：「そうそう 2004 年に、はじめて PCUR-LINK 事業が始まってね、私なんか水戸黄門様やプロマネに SHG ミーティングで話すな、とかソムニードのスタッフと一緒にするときしか SHG ミーティングに行ってはいけない、って言われたの。どうしてミーティングで話しちゃダメなの、どうしてミーティングに何度も行ってはダメなの、って最初は全然わからなかったわ。」

★長畑さん：「で、どうしてダメって言われたのか、わかるようになったのはいつ？」

●元マヒラアクション・スタッフ：「2004 年の終わりから 2005 年の初めにかけて、SHG メンバー自身で、帳簿をつけたり、ミーティングを開いたり出来るようになったのを見たときですね。あー私が SHG の仕事をすべてやってあげてはいけないかったんだ。彼女たち自身で出来るんだ、って思いました。それで、どうしてダメって言われたのかその意味がようやくわかりました。」

★長畑さん：「では、3つのイベントに戻って、2004 年、2006 年、2007 年のイベントでソムニードが何をしたかを一つずつリストアップしてください。」

☆黄門様：「ソムニードが何をしたか、何をしなかったか、どういう意図があったのか、一つずつ明らかにしてゆく作業じゃな。」

★長畑さん：「それをベースにして、ソムニードがファシリテーションをする上で、鍵と

なると思うことを挙げてみてください。」

このエクササイズをする前のソムニード・スタッフ。

自分が今までやってきたファシリテーションは、すべて「フツー」のことになってしまい、「一体自分が何をしてきたか」って振り返るのに一苦勞。今でこそ「フツー」にファシリテーションしているつもりスタッフだけど、2004年の事業開始当時は「なぜそんなことするの？」ってことばかりだったはず。

<ソムニードのスタッフの考えるファシリテーション DO s & DON'T s >

DO (すべきこと)

- ・ 質問を投げかけること。
- ・ 相手の能力を信じること。
- ・ 最初は失敗しても何でも、自分の力でまずやらせてみること。
- ・ 待つこと。
- ・ 発言をするときは、グループの許可をもとめること。
- ・ 10歳の子どもでもわかるように話しをすること。
- ・ 相手から質問されるまでは答えないこと。
- ・ 相手に考えさせ、周囲の人と考えを共有する時間を持たせること。
- ・ 努力した点を評価した上で、改善すべき点を指摘すること。

DON'T s (すべきでないこと)

- ・ お説教をする、答えをすぐに言うこと。
- ・ 相手の能力を信じるが、最初から過大な期待をしないこと。
- ・ 最初からすべてを説明して、相手に実践をして失敗することを許さないこと。
- ・ 許可なく相手のミーティングで発言すること。
- ・ 読み書きのできる人にしかわからないような話し方。
- ・ あら探しをすること。

PCUR-LINK 事業を通じて、ソムニードのスタッフは、日々、VVK オバチャンたちとその関係づくりに試行錯誤してきた。

「そしてソムニードは何をしたのか？」というこのワークショップ。

- ・ 改めて、この3年間の PCUR-LINK 事業で学んだファシリテーションの DO s & DON'T s をまとめることができた。
- ・ オバチャンたちの可能性を信じて、対等なパートナーとして活動してきたことは

間違っていなかった。

- ・ オバチャンたちの演劇がそれを証明してくれたことをとても誇らしく思った。

わかっていることは、これからも、ソムニードとこの元気なおバチャンたちとの関係はまだまだ続くということ。

PCUR-LINK 便り 完。

<注意書き>

(※1) VVK : ビシャカ・ワニタ・クランティの略。2005年に同事業のファシリテーションによって設立されたビシャカパトナム市内および近郊の36のSHGからなる連合体。SHGとは、セルフ・ヘルプ・グループといい、貯蓄と貸し付けを行う10人~20人で組織されるグループ。

(※2) ジャヤチャンドラン : CFDA (チェンナイのNGO) 代表。VVKにとっては2004年以来、研修、視察とずっと指導をしてくれたSHGの先生。

(※3) 長畑氏 : 本名、長畑誠氏。いりあい・よりあい・まなびあいネットワーク。ソムニード理事。

(※4) プロマネ : プロジェクト・マネージャーの略。本名は、原康子

(※5) ラマラジュ : ソムニードのPCUR-LINK担当スタッフ。

(※6) 水戸黄門 : 本名、和田信明。ソムニードの代表理事

(※7) マヒラアクション : 同事業のインド現地カウンターパートのNGO。

(※8) アクシャヤ銀行。チェンナイにある複数のSHG連合体による銀行。設立後10年で、その資金規模がメンバーの自己資金だけで約9千万円となった。VVKメンバーは、2004年、2005年と連続して、同銀行に視察に行き、同銀行メンバーもビシャカパトナムにVVKのモニターに来ている。

(※9) アシスタント・プロマネ : 本名、前川香子。ソムニード・スタッフ